

教団新報

定価 1部220円(本体200円+共283円)
予約購読料 1年分 千共 3,962円
紙代のみ 3,080円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 網中彰子
編集主筆 米山恭平
印刷所 株式会社きかんし

2026年度

関東・東京・東北・中部・東海・西東京・東中国・沖縄

教区総会報告 ②

教区における機構改定の議論が活発に



ソニックシティ小ホールを会場に



「機構改定」を主題に行った協議会

関東

教団総会議員選挙を半数連記で行う修正案を可決

第76回関東教区総会が5月27、28日、ソニックシティ小ホールで、正議員249名中、開会時168名が出席して行われた。

教団総会議員選挙では、教職、信徒各14名の議員を半数連記で選出することが提案された。これに対して半数連記での選挙を求める修正案が出され、「全数連記では組織的選挙による多数派の独占を生む」と提案理由が述べられた。無記名投票で採決を行い、投票総数170票、賛成90票、反対77票、白票3票で修正案を可決、半数連記で選挙が行われた。

議長報告で熊江秀一議長は、25年9月11日に発生したブラウザクラック

キリストの体なる教会として立ち、そこから「地の塩」「世の光」として歩んで行くことを核としたいと述べ、教区の課題を挙げた。議場からは、教会が政治的課題に取り組むことに反対する意見があった他、「無牧師教会の支援」、「孤独の中に

ある高齢者への伝道」、「教会の存続のためではなく、次世代の人たちに何が出来るのかを考えた信仰の継承」、「外国にルーツを持つ方に目を向ける」等、様々な課題が意見として述べられた。教団問安使として黒田若雄書記が挨拶した。質

東京

教団機構改定に関する協議会を実施

第86回定期東京教区総会が5月26日から27日、富士見町教会にて開催された。開会時の正議員の出席者数は448名中292名だった。

開会礼拝の中で、渡邊義彦議長は席上献金が伊豆諸島伝道のために用いられることを述べた。議長報告で議長は、教区が五支区との協力関係を強化し、常置委員会に準ずる協議の場として五支区長会の協力を得つつ、諸教会の伝道進展の

疑いの中で、辺野古の活動に教団として関わりがあるのか問われ、黒田書記は、「個人的な参加はあると思うが、教団から支援金が出ていることはない」と応じた。

教区互助会計のためのナルドの壺献金推進の件では目標額1200万円とした他、謝儀基準額を19万円から20万円とし、新たに無牧師教会の支援を検討することを可決した。

向山荘跡地売却に関する事項は常置委員会に任することを承認した。

【教職】熊江秀一(大宮)、小池正造(東新湯)、田中かおる(安行)、栗原清(武蔵野岡)、町田さとし(初雁)、武田真治(上尾合同)、佐野明子(塩谷一粒)、飯塚拓也(竜ヶ崎)、長倉望(新湯)、川上盾(前橋)、片岡宝子(東中通)、荒井眞理(佐渡)、山岡創(坂戸)

【信徒】境和彦(富士見町)、小川洋一(石神井)、伏見陽子(新津田沼)、尾野明子(推薦議員・王子)、今村万輝子(用賀)

【教職】篠田真紀子(浅草、高橋潤(銀座)、藤盛勇紀(富士見町)、林牧人(西新井)、伊藤英志(三軒茶屋)、左近深恵子(美竹)、岸憲秀(千葉本町)、渡邊義彦(柿ノ木坂)、村上恵理也(松戸)、大友英樹(赤羽)、古旗誠(目白)、大塚啓子(目黒原町)、原田裕子(薬田台)、東野尚志(滝野川)、川俣茂(広尾)、村上実基(石神井)

【教職】左近深恵子(美竹)、大塚啓子(目黒原町)、大友英樹(赤羽)、東野尚志(滝野川)、村治一路(三崎町)、伏見

【信徒】堀川樹(亀戸)、小宮一文(富士見町)、野村稔(鳥居坂)、北川正弥(代々木中部)、鈴木淳一(大井町)、藤崎義宣(久ヶ原)、古賀博(早稲田)、滝澤貢(四谷新生)、真壁巖(西千葉)、山内慎也(千葉北総)

【信徒】野村正宣(銀座)、高橋玉代(江戸川)、原健太郎(聖徒)、有馬一宇(広尾)、中島耕二(新米、柗田恒(柿ノ木坂)、白井愛子(西片町)、永家孝子(赤羽)、齋藤光子(千葉本町)、馬場千晶(千葉北総)

【教職】堀川樹(亀戸)、小宮一文(富士見町)、野村稔(鳥居坂)、北川正弥(代々木中部)、鈴木淳一(大井町)、藤崎義宣(久ヶ原)、古賀博(早稲田)、滝澤貢(四谷新生)、真壁巖(西千葉)、山内慎也(千葉北総)



小学5年生の次女の友人たちが4人が教会につながっている。ここ1年程は毎週CS礼拝に出席し、教会の行事にも積極的に参加する。日曜日の多くの時間を教会で過ごしている。▼次女を含めた5人組は「どんぐり隊」という渾名を持つ。インターネットで知った「どんぐり」を

「と歌い出す珍妙な替え歌をしょっちゅう口ずさんでいたのでそう呼んだのが始まり。我ながらひねりの無い渾名だ。しかし本人たちは気に入ってこれたらししく自称するようになり、彼女たちのLINEグループ名も「どんぐり隊」。今ではCS教師たちもそう呼ぶ。▼「キリスト者」という呼び名も、元は渾名のようなものだったと言われている。弟子たちがいつもキリストの名を呼び、口にしていたのでそう呼ばれるようになったのだろう。しかし彼女たちにとってはキリストの名で呼ばれる喜びと誇りが、伝道の力になったのは間違いない。▼困難な時代にあって日本伝道を担う弟子たる我々も、キリストの名によって呼ばれる喜びと重みを改めておぼえることが不可欠なのではないか。▼「どんぐり隊」が「キリスト隊」になる日が来るのが今の祈りである。

東北

教区機構改定・財政問題検討委員会の設置を可決

第81回東北教区定期総会が、5月26～27日、仙台青葉荘教会・東北教区センター「エマオ」を会場にして開催された。正議員146名のうち、113名の出席をもって開会した。

本総会での中心的な話題となったのは、「教区機構改定・財政問題」である。数年前より、東北教区の最重要課題であることが訴えられたものの、具体的な方策に踏み出せないでいた。

このことを真剣に受け止め、総会一日目午後の冒頭に「協議会」を開催した。

協議会では、機構改定・財政問題に至る常置委員会および、研究を委託された宣教共働研究所に



仙台青葉荘教会にて開催

よって、経緯が報告された。そして、東北教区が今後、厳しい状況のなかにあっても、魅力ある宣教を展開すべく、積極的な意見交換がなされた。

特に、東北教区において、7つある地区の教勢・財政・教師数などにおける格差は顕著であり、それぞれの地区で宣教の課題を共有し、担い合うという「宣教共働」の理念を維持することが難しくなりつつある現状も、具体的に紹介された。そして、機構改定・財政問題は、急務であることを、議場で再確認した。

中部

11項目の宣教実施目標を可決

第76回中部教区総会が5月19～20日の二日間、名古屋中央教会を会場に開催された。開会時の出席者数は正議員209名中153名だった。

議事の最初に「准允式執行に関する件」が上程され、1名の准允を行うことが承認された。それに基づいて直ちに准允式に移り、滝口大気教師(各務原)が新たに立てられた。

【教職】 齋藤篤(仙台宮城野)、荒井偉作(名取)、瀬谷寛(仙台東一番丁)、新田恭平(猪苗代)、原裕(天童)、松本のぞみ(巡回教師)、松本周(宮城学院女子大学)、平賀真理子(岩沼)、中本純(仙台東六番丁)

【信徒】 森睦(天童)、鈴木のぞみ(川俣)、鬼澤洋美(岩沼)、片岡輝美(若松栄町)、石原裕子(磐)、丹治洋子(信夫)、小野典子(仙台宮城野)、齋藤淳子(仙台北葉荘)、畑勇治(保原)

えられたこと等を報告した。また互助制度と、謝儀援助や伝道費援助を中心とする「助会伝道」を支えるための自主献金への協力を呼びかけた。

議長報告に対しては「ハラスメント問題」に関する取り組みについて、半島地震被災教会への支援を継続していくこと、中高生バイブルキャンプに過去最高の参加者が与

東海

「第三次五カ年計画」の実施を可決

第115回東海教区総会が5月25日から26日、池の平ホテル(長野県北佐久郡立科町)にて開催された。

開会礼拝では日本基督教団信仰告白を告白し、柳谷知之議長による説教「約束を信じて歩む」が語られ、聖餐式が執行された。

開会時の出席議員は総議員数185名中122名。

れば教会の負担が過重になるという予測がある」とし、機構改定の案として活動の現状を維持しつつ経費削減につとめるA案、機構の改革と委員会の再編をするB案を紹介した。これに対して信徒の発題者2名が応答し、牧師の多忙の解消や主日礼拝の充実に資する機構改定の必要性を述べた。

二日目は追悼礼拝と隠退教師感謝会から始まり、続いてバイブルキャンプの様子が映像によって報告された。

本総会への教団問安使は黒田若雄書記。問安使挨拶に対しては出版局の事業整理、「礼拝と音楽」No.209の回収問題、教団総会議員数の削減、沖縄教区との関係回復等について質問や意見が多数出た。また辺野古の転覆事故について「死亡した船長にも教団として哀悼

白の第二段落の言葉を、年度ごとに区分して主題を掲げ、教区内の諸活動を計画するものである。柳谷議長は、このことにおいて「教会生活、信仰生活の中心に贖罪信仰があることを確かめたい。主の十字架によって贖われ、主のものとされていく(聖なるものとされた)教会にこそ伝道の活力が与えられる」と力強く述べた。

一日目の議事は教団総会議員選挙と並行して進められ、議事終了後には、昨年度の召天者を憶え、記念式が執り行われた。二日目は最初に、前日の議事で可決した按手礼式、准允式が執行され、正教師1名、補教師2名が立てられた。

その後議事は、「第三次五カ年計画」も含めて進められ、議案は全て可決された。

教団総会議員選挙結果【教職】柳谷知之(松本)、新里正英(三島)、穴戸俊介(愛宕町)、石井佑二(遠州)、宮本義弘(沼津)、宇田真(岩村田)、兵藤辰也(中遠)、横井伸夫(長野)、川崎一路(清水)、上田彰(伊東)、上山耕平(信州)

【信徒】 関尚子(沼津)、土屋芳子(長野県町)、林信孝(松本)、弓田寛志(愛宕町)、稲松義人(遠州栄光)、遠藤彰彦(市川)、土田耕造(静岡)、斎藤晴久(岩村田)、飯野清(三島)、古屋秀樹(愛宕町)、井上亨(韮崎)



総会冒頭で准允式を執行



二日目に按手礼式を執行

べて承認された。

教団総会議員選挙結果【教職】 田口博之(名古屋)、小林光(熱田)、井ノ川勝(金沢)、松島保真(小松)、加藤幹夫(阿漕)、山田詩郎(名古屋)、横山良樹(半田)、内城恵(羽咋)、上竹裕子(上野)、蜂屋博寿(津)、渡部和使(富山新庄)

【信徒】 宮川恵美子(金沢元町)、西井淳(富山二番町)、三木秀夫(敦賀)、篠田頭(半田)、岡本章(金城)、衛藤智子(名古屋北)、山本松子(紀伊長島)、北川千恵(若草)、本弘禮子(津)、加藤真人(桃山)、平尾貴美子(幸町)

西東京

「2026年度宣教活動計画に関する件」を可決

第53回西東京教区定期総会
教区総会は、5月31日
から6月1日にかけて



阿佐ヶ谷教会にて、135名が出席

阿佐ヶ谷教会を会場に行
われた。開会時、正義員
188名中135名の出

席があり、定足数63名を
満たして成立した。
開会礼拝は、中島曉彦
常置委員の司式、古屋治
雄牧師（阿佐ヶ谷）の説
教により、一同が神を賛
美し、み言葉による力を
与えられた。また、礼拝
の中で聖餐式が行われ、
参加者一同、聖餐の恵み
を共にすることが出来
た。

総会の議案として
は、「2026年度宣教
活動計画に関する件」
「2025年度教区歳
入歳出決算承認の件」
「2026年度教区歳入
歳出予算承認の件」、「教
団年金を守るための教区
推進案に関する件」など
が上程され可決された。

また、今年度より、初め
て議案として「2025
年度東京教区・西東京教
区墓所管理委員会特別
会計決算承認及び収支
差額処分案承認の件」
「2026年度東京教区・
西東京教区墓所管理委員
会特別会計予算承認の
件」が上程された。これ
まで、墓所管理業務につ
いては東京教区と共に
行ってきた。そのため墓
前礼拝で用いる物品管理
については、西東京教区
事務所で保管・管理する
こと、それに伴い墓前礼
拝プログラムの印刷業務
なども西東京教区事務所
にて行うことが報告され
た。また、墓所管理資金
については、東京教区財

務部・予算決算合同委員
会や西東京教区常置委員
会とも連携しつつ、協議
を進めていくことなどが
報告された。これらと合
わせて、会計報告も議案
として上程され、可決さ
れた。
二日目は、問安使とし
て網中彰子総幹事が挨拶
をし「2026年度教区
総会への議長挨拶」に基
づいて説明を行った。教
団機構改定に関するこ
等、活発な意見交換がな
された。

総会中に、常置委員
（半数改選）の選挙、教
団総会議員選挙が行われ
た。常置委員、教団総会
議員の選挙結果は次のと
おり。

常置委員選挙結果
（半数改選）
【教職】願念望（白鷺）、松
竹前治（清瀬信愛）、松
木進（花小金井）

沖縄

三役、常置委員を選出

第87回沖縄教区定期総
会が5月24・25日、沖縄
キリスト教センターで行
われた。

以下の議案を扱い、全
て可決された。

議案第1号「議事日程
承認に関する件」、議案
第2号「総会特別委員選
任に関する件」、議案第
3号「按手礼執行に関す
る件」、議案第4号「准
選挙に関する件」、議案



沖縄キリスト教センターを会場に開催

議案第5号「教区総会議
長、教区総会副議長及び
教区総会書記選挙に関す
る件」、議案第6号「教
区幹事選任に関する件」、
議案第7号「教区常置委
員選挙に関する件」、議
案第8号「各部・委員会
委員選任に関する件」、
議案第9号「会計監査委
員選任に関する件」、議
案第10号「教団総会議員
選挙に関する件」、議案

第11号「『沖縄教区機構
改定』に関する件」、議
案第12号「『沖縄教区人
権・ハラスメント相談
窓口の設立』に関する
件」、議案第13号「『沖
縄教区巡回教師規程』の
制定に関する件」、議案
第14号「『沖縄教区伝道
助規程』の制定に関する
件」、議案第15号「『沖
縄教区財政調整基金運用
規程』の制定に関する件」、
議案第16号「2025
年度沖縄教区経常・特
別・収益会計決算報告承
認に関する件」、議案第
17号「2025年度沖
縄キリスト教センター
事業及び決算報告承認
に関する件」、議案第18
号「2026年度沖縄教
区経常・特別・収益会計
予算承認に関する件」、
議案第19号「2026年
度沖縄キリスト教セン
ター事業及び予算承認
に関する件」、議案第20
号「2026年秋季准允
按手の執行に関する件」、
議案第21号「第87回沖
縄

教区総会議事録確定に関
する件」。
また、小林明教師の正
教師按手礼式、榊原かを
る教師の補教師准允式が
執行された。
議長報告で、「3月に
は、金井創牧師が辺野古
沖転覆事故によって女子
高生と共に命を失うとい
う悲しい事故がありまし
た。事故に関して様々な
意見や忠言が寄せられま
したが、ご遺族と佐敷教
会へ主の慰めと平安、導
きを祈る中で、召された
お二人へ哀悼の意を表し
ます」と報告された。

三役選挙結果・幹事
【議長】上地武（首里）、【副
議長】具志堅篤（与那原）、
【書記】玉城涼子（兼次）、
【幹事】仲本堂（平良川）
常置委員選挙結果

【教職】島しづ子（うふ
ざと）、高多新（高原）、
羽柴禎（名護）
【信徒】山代寛（首里）、
中原牧子（石川）、大城
真理子（名護）
（仲本 繁報）

東中国

教会の合併と伝道所の廃止を可決

第75回東中国教区総会
が5月25・26日、岡山教
会を会場にして、開会時
正義員84名中59名が出席
して行われた。

開会礼拝では、延藤好
英牧師（光明園家族）に
よる説教、武石晃正牧師
（米子）による聖餐式が
執り行われた。また、二日
目には、逝去者記念礼拝
が執り行われ、田中直子
牧師（美作落合）による
説教がなされた。

教区総会議長報告、常
置委員会報告、各地区
報告、各委員会報告等
の承認は、事前に資料を
読んでいることを前提に
して進められ、特に議
論となることも無くス
ムーズな議事進行がなさ
れ、2025年度決算、
2026年度予算も可決
された。

また活動停止していた
虫明伝道所廃止に関する
件と、米子教会・日野教
会合併承認に関する件
は、それぞれ全会一致に
より可決承認された。
なお、教区総会副議長
の任期途中の転任に伴
い、副議長補欠選挙が行
われた。またこの結果に
伴い、教職常置委員に欠
員が生じたため、第74回
東中国教区総会において
行われた教職常置委員選
挙結果の次点者が繰り上
げられた。合わせて教団
総会議員選挙も同時に行

われ、以下のように決
まった。
教区総会副議長補欠選
挙結果

【副議長】廣田和浩（岡
山）、常置委員【教職】
森言一郎（旭東）
教団総会議員選挙結果
【教職】服部修（番山町）、
森言一郎（旭東）、小岩
輝（倉敷水島）、中島猷
二（高倉栄光）、三浦きよ
うこ（玉島）、武石晃正（米
子）



左から、塚本望書記、服部修議長、
廣田和浩副議長

【信徒】松原慎一（米子）、
宮脇俊昭（倉敷）、河田
直子（番山町）、山内英
（塚本 望報）

事務局報

長山恒夫（隠退教師）



26年6月5日逝去、88

歳。東京都生まれ。64年
東京神学大学大学院修
了。65年より行人坂、弘
前南、武蔵豊岡教会を牧
会し、日本基督教団事務
局に務め（昭島教会兼
務）、永福町を経て11年
隠退。遺族は妻・長山篤
子さん。

カルト問題相談会

◎日時 2026年7月31日（金）
午後1時～3時
◎会場 日本キリスト教会館4階 会議室

お詫び・訂正

教団新報5047号2
面「九州教区総会報告本
文中、教団総会議員選挙
結果【教職】日下部克彦
（大分）を深澤奨（佐世保）
に、お詫びして訂正いた
します。

伝 道 報 告

伝道の
ともしび

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」
ルカによる福音書第10章17節～20節

伝道推進室より応援した教会・伝道所

この地にある教会としての歩み

三原教会牧師、尾道吉和伝道所（代務者） 菊田 行佳

沿線にあった会堂を、現在地（尾道市沖側町）に移転します。チャーチスクールの保育者、保護者、卒園児から受洗者が誕生し、現在の伝道所の働きを担っています。

尾道にある教派を超えた諸教会と協力し、イエスターフエスティバルを20年間継続して行ってきました。尾道駅前商店街で毎年行われるクリスマスキャロルにも参加してき

ました。

尾道吉和伝道所は、尾道久保教会の開拓伝道によって1964年高垣岬牧師の時に開設されました。その後、1969年に就任した島田好国牧師によって長期にわたって2023年まで牧会がなされました。島田牧師の就任時より児童館チャータスクールを開園し、地域の保育事業を担ってきました（2007年から休園中）。

尾道吉和伝道所の特色として、国際的な繋がりをもつための活動に尽力してきたということがあります。「日英米の和解と交流・赤レンガの会」で和解の碑を建てる活動に参加し、「ミヤンマーの子どもたちを支える会」で5回の交流会に参加してきました。その他、韓国の教会を訪問し、修養会にも参加しました。

教会学校の取り組みとして、広島東分区での教会学校キャンプを実施したり、沖縄・グアム・サイパンの子どもたちとの交流の旅をしたりしました。キッズ라운の英語教室を10年間行い、多い時で20名の子どもたちが在籍していました。

会堂外観と筆者



伝道所の修養会として、鹿島（西海町）、沖縄南部戦跡、南九州の旅をしてきました。以前は家庭集会も盛んに行い、J・T・J宣教師学校の信徒コースの学びも行っていました。

とりわけ児童館チャータスクールの働きに力を注いできましたが、野の百合会という子育て支援サークルでは、保護者の相談を受けたり、子育ての悩みを話し合える場所を提供することができました。花の日やクリスマスには、小児科や成人患者を訪問し入院している子どもや患者さんたちを励ます交流をしてきました。チャータスクールの運営は、多くの人が召されたり転居するなどしてたずさわるメンバーが減少し、少子化によって入園児も減少して補助金もなく、いろいろな法人化を検討しましたが児童館という制度の中では限界があり休園せざるを得なくなりました。これまで900人余りの卒園児を送り出し、多くの福音の種を蒔くことが出来たことを心より感謝しています。

現在教員は4名、礼拝出席は主日10時（第2主日14時）35名、第3主日10時が9名前後です。代務者が月2回礼拝を担当し、近隣教会より月1回説教奉仕をお願いしています。

伝道所近隣の住民、子どもたちがめっきり少なくなりました。伝道所を訪れる人もほとんど居なくなりましたが、それでも癌を患い余命宣告をされた方が訪れることもあります。「小さな群よ、恐れるな。あなたの父は喜んで神の国をくださる」という御言葉を握りしめて、今いる伝道所のメンバーで、共に喜びの礼拝を守りつつ、今できることをして行きたいです。

カルト問題連絡会 韓国訪問

宣教課題としての
カルト問題

動を行っていることが実例を挙げて報告された。日本側の発題は齋藤篤牧師（カルト問題連絡会世話人）による「統一協会解散命令と今後の課題」で、解散命令については韓国側も関心が高く、その理由や今後の見通しについて活発に質疑応答が行われ、相互の理解を深めることができた。

翌日は麗水老会で20年以上続けられている異端カルト対策のための祈禱会に出席した。

その後、麗水の地域にある統一協会関連施設を見るバスツアーを行った。麗水は風光明媚な観光地で2012年にEXPOが開催された。その以前から統一協会によるリゾート開発や関連施設の建設が問題となっている。

昼食の後に締めくくりの会を行った。このセミナーは2004年に教団の全国連絡会に韓国の代表を招待したことに始まり、相互の交流は22回目となった。

カルト問題は何よりも予防が大切であること、インターネットを含め様々な勧誘の手段があること、誰もが被害者となる可能性があり教会の大きな課題であることを再確認することができた。

次年度は教団のカルト問題全国連絡会に韓国の代表を招待することを確認して終了した。

(望月 智報)

ひととき

もりた まりこ
森田真里子さん

蒔いた種は必ず花開く



聖ヶ丘教会員

現在、港区白金台にある中高一貫校の頌栄女子学院の理事ならびに事務長として、忙しくも充実した毎日を送っている。法人の理事として学院全体を見渡すポジションであると自覚する。学院の創始家である岡見家で生まれ育った自分が、そこに働き場を与えられるのは神の必然だと受け止めている。

とは言っても、教会に通い出したのは最近のことだ。信者が多い家庭環境であった。そのため神さまやキリスト教の存在は身近だった。母親はキリスト者ではなかった。しかしことあるごとに神の導きを説く人だった。自分も「すべてが神さまの導きである」と自然に信じて生きてきた。

結婚後子どもが与えられた。子どもと一緒に教会に通いたいとの思いが与えられた。しかし時はコロナ禍。コロナが明けるまでは、配信で礼拝を視聴するしかなかった。

コロナが明けて初めて教会の礼拝に出席できたとき自然と涙があふれた。このときの礼拝体験が、毎日の学院の礼拝でも生徒、教員の礼拝体験になると信じている。

2023年のクリスマスに聖ヶ丘教会で受洗。名実ともに信者としての歩みが始まった。

「生徒たちの今のみならず、将来において必ず神の言葉は花開く」と力を込めて語る。キリストの証人がここにもいる。

高知教会では、6月の1回の礼拝を「老いを考える礼拝」として行っている。今年も6月21日に行った。この礼拝を始めて7年となるが、毎年この礼拝を覚えて出席してくださる求道者もおられ、感謝している。

高齢者が満ちあふれる教会に

高知県は、日本で最も早いスピードで高齢化が進む地域と言われる。そのような状況にある教会として、高齢者への伝道は、私たちの教会に託されている大切な使命と思わされている。ある年の伝道委員会で、私が「高齢者伝道礼拝を行いたい」と提

案すると、委員から「その名称ではどうでしょうか」と言われ、結局「老いを考える礼拝」として行うことになった。全ての人が歩む「齢を重ねる」意味を聖書から聞く時となっている。今から10年ほど前、礼拝後に、当時80歳代後半の教会員から、こういう言葉があった。「教会も高齢者がばりになって、せが

がないという意でしょう」と。それで、私は答えた。「せっかくなので、高齢者が満ちあふれる教会になっていきたいと思っています」と。するとその方の顔がパツと明るくなって、「では、私が教会にすることに大きな意味がありますね」と言われた。既に神の御許に召されたその方の言葉は、常識に捉われないで伝道の姿を考えていく大切さに気づかせてくださったものだったと思わされている。

(教団総会書記 黒田若雄)